

【学校教育目標】
豊かな心と高い志をもち、たくましく生きる生徒の育成

【本年度の重点目標】
・不登校の未然防止と、基本的な生活習慣の定着
・学習習慣の定着化と体力の向上
・人権尊重の行動化と自尊感情の高揚

分野	自己評価（4:大変よい 3:よい 2:努力を要す 1:すぐに改善）	学校関係者評価	平成31年度に向けた改善策	
学校経営	① 学校の教育目標（重点目標）を達成するために、日常の教育活動ができてきているか ＜結果＞ 学校教育目標を具現化する教職員の意識が高まり、生徒の姿にも変化が現れてきた。	4	落ち着いた学校生活を継続させていながら、心の教育の充実や学力向上を目指してほしい。	・目標の意識化（凡事徹底）の取組を行う ・取組の成果と課題を整理して質を向上させる ・学年毎の達成目標を明確にし改善を図る
	② 校務分掌の担当として、役割が果たしているか ＜結果＞ 各分掌の取組の充実を図るためにも、役割の明確化と連携を進めていく。	3	学校に必要な活動は受け継いで、やめる活動は新しい活動に変えて盛り上げてほしい。	・早期提案と進捗状況の確認をPDCAで実施 ・縦割り活動を連動させた取組内容の創造 ・校務分掌の役割の明確化と連携
	③ 学級担任及び副担任が協力して、意図的・計画的に学級経営ができてきているか ＜結果＞ 相談や引継の連携がとれ、同一歩調で生徒への指導等ができ、円滑な学級経営ができた。	4	卒業式での生徒の態度や歌声が素晴らしかった。日々の先生方の指導と生徒とのつながりがあってこそ。今後も頑張してほしい。	・学年、学級経営の計画的、意図的な推進 ・担任と副担任の役割分担の明確化 ・協働体制（チーム）づくりのために教員間のコミュニケーションを密に行う
	④ 学年会議で学年の課題の共有を図り、課題解決に向けた実践・評価・改善ができてきているか ＜結果＞ 時間の確保はできている。課題や議題を明確にして同一歩調で進めるとともに、日常の情報交換も行うことができた。	4	新年度も先生方の協働体制をしっかりとついでほしい。その際、教師自らその模範を示してほしい。	・各種委員会から学年への取組の周知徹底（当事者意識の高揚） ・指導の共通理解の推進（生徒状況の情報交換・対話を密に行う） ・学年業務と校務分掌業務の両立
	⑤ 校内研修は、質・量ともバランス良く実施できているか ＜結果＞ 主題研究（道徳科）についての研修の1年目が終了した。来年度は、中間報告ができるような実践を積み重ねていく。	3	SNSの問題や保護者の対応等、たくさん課題があると思うが、時代の変化に対応できる教師として、研修に励みスキルアップを目指してほしい。	・研修内容の整理と取組の明確化 ・一般研修、校内研修の年間計画を作成する ・新学習指導要領に伴う研修の充実（特に、道徳科）
	総合所見	教育目標の達成に向けた取組は、学年の取組により遂行できているが、校務分掌組織の機能化を図る必要がある。特に、生徒の実態に併せ、内容の変更や付加・修正が必要と考える。		
教育活動	① 教科担任として、合理的配慮を踏まえた教材・発問・板書の工夫等、授業づくりや指導技術の向上に努めているか ＜結果＞ 嘉麻市の事業に係る公開授業を実施し、研究報告や教育論文への応募等、資質の向上に努めた。	3	校内研修だけでなく、他校での実践も参考にしながら、今後も指導技術を磨いてほしい。	・個に応じた取組（形態、教材の選択、特別支援教育の視点） ・考える力を育成する指導（書く場面、交流場面の設定） ・活用力をつけるための単元計画とその実践
	② 朝の学習活動や家庭学習の課題等、学力向上につながる創意工夫をしているか ＜結果＞ 現在の取組を継続しながら、自学ノートの質の向上に取り組んでいく。	4	今後も一つ一つ丁寧にやっていってほしい。3年生が部活動を引退した後の学習支援を積極的にしてはどうだろうか。	・朝学習の計画的推進（確認テストの活用） ・基礎基本の徹底を図る取組の充実（宿題、週末課題の充実） ・自学ノート実施の改善（内容の個別化）
	③ 人権学習や道徳の時間は、考えさせる場となり、いじめ防止等つながっているか ＜結果＞ 道徳科や生徒の心を育てる取組を推進していく。	3	いじめに対して早急に対応していることが分かり安心した。やる気を持って学校生活が過ごせるような教育を推進してほしい。	・実態に即した指導計画、教育内容づくり ・教師の学びと指導力の向上 ・学校行事と縦割り活動の関連を図る
	④ 学活や学校行事は生徒の自主性を引き出す取組となっているか ＜結果＞ 振り返りを充実させ、学校行事や新たな行事の取組を生徒の自主性を引き出せる機会に向上させていく必要がある。	4	体育会、合唱コンクール等行事を工夫していただいていることがありがたい。縦割り活動は、今後も続けてほしい。	・達成感を持たせる工夫 ・生徒会による行事の計画と運営（生徒自ら課題を見つける） ・行事後の取組の充実（振り返りと日々の生活につなげる）
	⑤ 保護者や地域と連携した教育活動に取り組んでいるか ＜結果＞ PTAと青少年育成住民会議の協働活動を継続させ、学校・家庭・地域の連携を促進させていく。	3	青少年育成住民会議等、地域との連携をさらに進めてほしい。また、学校メール等を用いた学校からのお知らせを活用したらよいのではないかと。	・通知が家庭まで届いていない実態の改善 ・保護者との積極的な連携と参画意識の啓発 ・通信の充実（特に、SNSへの啓発）
	総合所見	教師や生徒の授業（学習）に対する意識は向上してきているが、学力を向上させる教師の指導技術が課題である。また、自ら課題を発見し、主体的に解決していく姿勢を育てるために、「鍛ほめ福岡メソッド」の取組を更に推進していく。		
生徒の状況	① 生徒たちに、感謝の心を持ち、周りの人を大事にする言葉遣いが身についているか ＜結果＞ 生徒一人一人と向き合う意識を教師が持ち、教育相談や生徒アンケートにより安心できる環境づくりが進んできた。	3	生徒一人ひとりの話を先生が聞いて、アドバイスをしてほしい。先生と生徒のつながりが生徒と生徒のつながりをつくっていくと思う。頑張してほしい。	・自己や他者で評価できる場の設定 ・適切な言葉遣いや認め合う場の工夫 ・教師、生徒の言語環境とその場での指導の徹底
	② 学級集団には、お互いを認め支え合う雰囲気が育っているか ＜結果＞ お互いの良さを認め合える雰囲気ができてきた。毎日のHRを充実させ、話し合い活動による集団作りを行う。	4	お互いを知るためにはコミュニケーションがまず必要である。学級がよい方向に進むために先生方が導いてほしい。また、教え合い活動を授業の中で活用してほしい。	・不登校生徒と学級のつながりづくり ・支持的な雰囲気づくりと仲間意識向上の取組の充実 ・教師間の連携と支え合い
	③ 生徒は、基本的な生活習慣（生活リズム、挨拶の習慣、整理整頓、掃除）が身についているか ＜結果＞ 家庭への啓発が課題。深夜のスマホやゲームが子どもに与えている負の影響を保護者に根気強く啓発する。	3	SNSやゲームの問題は、届けたい保護者に届かない実態がある。社会的な問題だが、啓発の工夫など根気強く続けてほしい。	・SNSなど保護者を巻き込んだ取組 ・生徒の個別の実態把握と声かけ（アセスの活用） ・遅刻、欠席解消の取組
	④ 生徒は、積極的に学習活動に参加し、日常的に学習する習慣が身についているか ＜結果＞ 平日の自学ノート・週末課題の実施で家庭学習を全くしない生徒は減少しつつある。小中連携による学習規律を進めよう。	3	学習することが当たり前の意識を持たせる取組を工夫してほしい。課題のチェックを細かく行い、指導しているを今後も継続してほしい。	・中学校での学習の仕方の指導 ・小中連携の取組（学習のルールづくり） ・宿題、自学の統一した取組の継続
	⑤ 生徒は、毎日楽しく学校に登校しているか ＜結果＞ 学ぶ楽しさを実感できるような授業への転換を推進している。自尊感情を高める取組を継続していく。	3	先生たちが元気ならば生徒たちもやる気をもって生活できると考える。	・キャリア教育を意識した指導の充実（個別の支援） ・意欲を引き出す題材、導入、発問 ・自尊感情を高める取組の充実
	総合所見	生徒の集団に対する帰属意識が向上する等、生徒の状態は良くなっているが、背景にある厳しい実態は変わらない。保護者や地域と連携した長期的展望に立った取組を構築する必要がある。		